

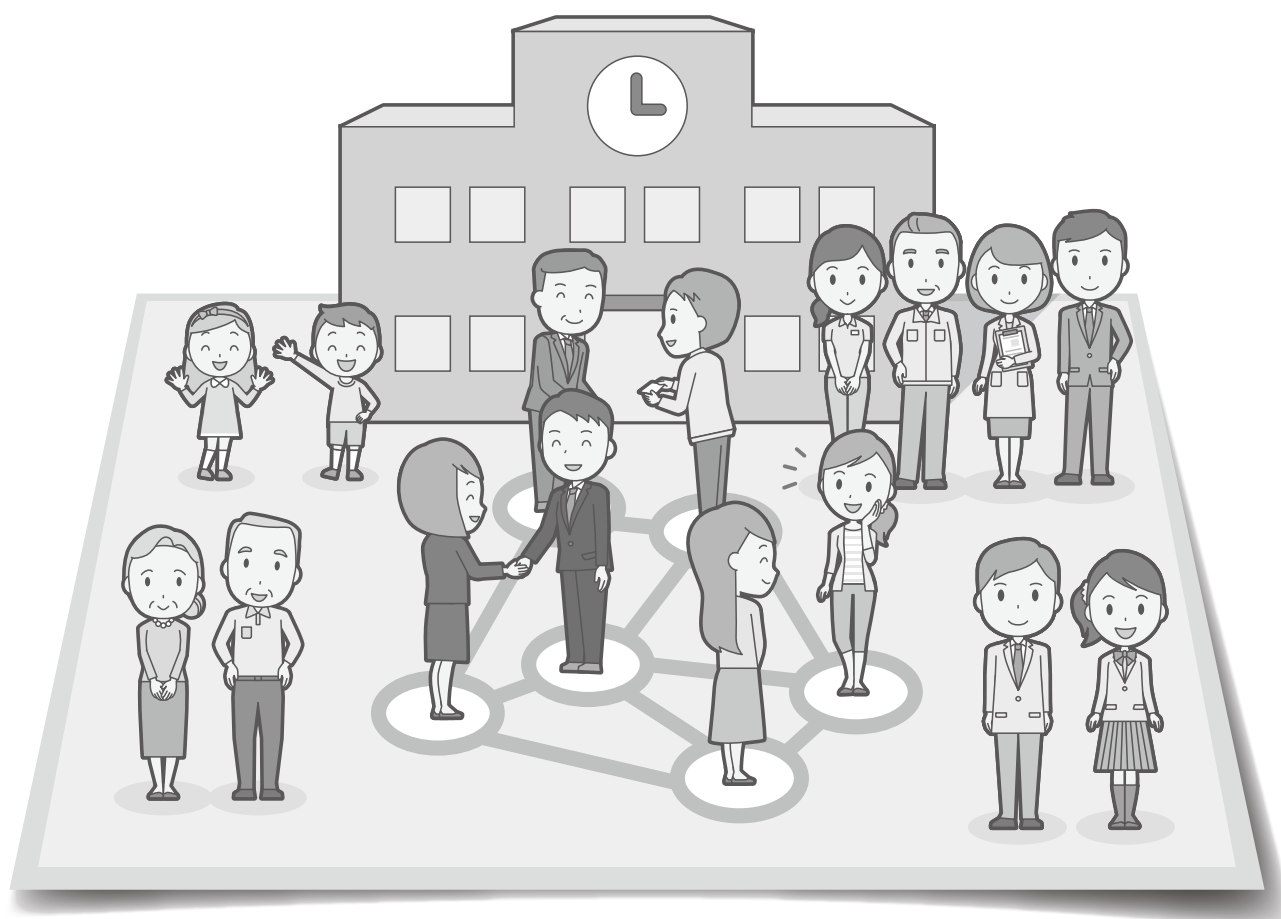
Ⅲ ひびきあいによる学びの循環

現代は、家族のありようの変化や価値観・ライフスタイルの多様化等によって、地域社会におけるつながりや支えあいが減少しているとされています。

そうした社会環境がある一方で、学校は地域において自然に人が集まる場として存在しています。

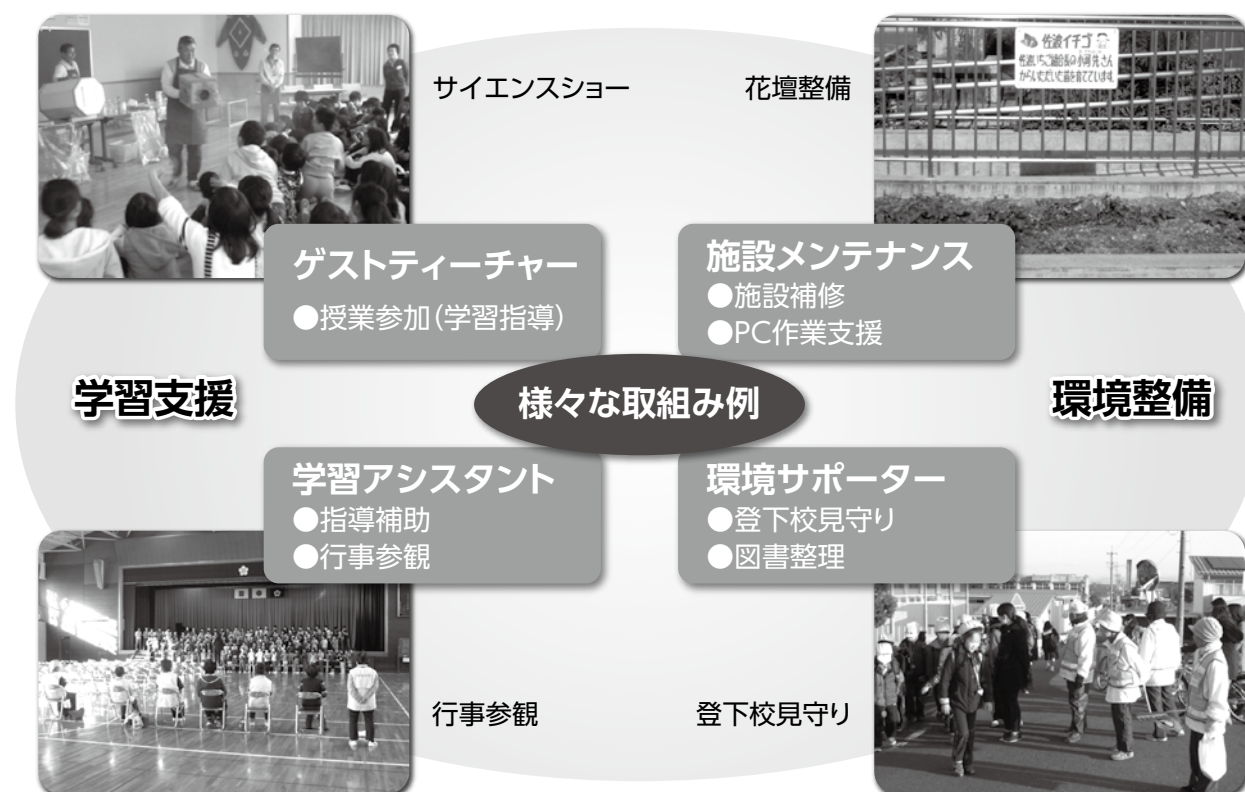
登校してくる子どもたちがいて、その子どもたちを送り出す保護者がいます。通学路を見守る地域の人たちがいて、子どもたちを預かる教職員がいます。学校という場を核として、多くの人々が様々な機会に多様なつながりを有することとなります。

■ 図表13：学校を核とする多様なつながり



岐阜市では、平成20年度以降、学校と地域がともに学校を運営することを趣旨とするコミュニティ・スクールの普及を進め、平成27年度には全小中・特別支援学校に学校運営協議会を設置し、様々な取組みを推進しています。

■ 図表14：学校と地域が一体となった様々な取組み例



平成29年度に、市内の大学と共同で、岐阜市の小中学校の教師や児童生徒・保護者、学校運営協議会委員を対象に行った調査では、保護者・地域住民・教師の連携意識（協力して活動に取り組もうとする気持ちや、活動を円滑に進めるための協力的行動など）が高いほど、子どもの学校での居心地の良さや学習意欲の向上につながることが示唆されました。また、コミュニティ・スクールの導入から年数が経過するにしたがって、子どもの地域への愛着が高まることが分かりました。これらは、コミュニティ・スクール導入の成果の一つと言えます。

（資料）教師・保護者・地域住民の相互コミュニケーションに関する研究プロジェクト
岐阜聖徳学園大学教育学部 吉田准教授／岐阜大学大学院教育学研究科 吉澤准教授

（用語の解説）

- コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）：学校に「学校運営協議会」を設置し、委員として任命を受けた保護者や地域住民が、学校長作成の学校運営の基本方針（学校の重点目標や年間の行事計画等）を承認したり、学校運営に関する意見を述べたりすることを通じて、学校の課題解決に参画する制度です。

地域社会の中で様々な人との関わりを通じた経験的な学びは、子どもたちが未来の社会を生き抜いていく上で大切な要素です。

子どもは大人の背中を見て育ちます。社会をよりよいものとしていくために何が必要かを大人自身が考え行動に移すことは、その背中を見て育つ子どもにとって代えがたい学びにつながります。そのために、全ての大人が地域の教育者であることが期待されます。

大人も、子どもとの関わりの中で新たな学びの機会を得ることができます。現在と未来の担い手がひびきあい、学びが循環することで、生きがいを見つけ、人生を豊かに幸せに生きる人々があふれるまちの実現につながります。

■ 図表15：ひびきあい・学びの循環

